

オプアウトにより同意を取得する臨床研究一覧  
 直接に同意を取得しない臨床研究一覧（平成29年度）

承認番号	診療科	研究課題名	研究内容	研究責任者	研究期間
171001	消化器外科	肝内胆管癌切除例の治療予後に関する多施設共同研究	肝内胆管癌は癌発生件数が稀であることにより、多施設での共同研究を行い、治療予後・予後不良因子を明らかにするとともに、治療予後改善に向けた治療戦略構築を目的とする	須井 健太	平成29年4月 ～平成34年2月
171012	消化器外科	術前治療後膵癌切除例の予後予測因子に関する臨床病理組織学的後ろ向き観察研究	術前治療の後に外科的切除が施行された膵癌症例に対し、患者の特徴に関するデータ(年齢、性別など)、外科治療データ、化学療法データの集積を行い、手術から死亡までの時間、手術から再発までの時間、再発形式などについて、統計学的に解析を行っていく。	岡林 雄大	平成29年5月 ～平成29年12月
171016	救命救急科	マムシ咬傷に対する抗毒素血清療法の有用性についての調査研究	マムシ咬傷では、重症度が高くなるとマムシ抗毒素を使用し重症化するのを軽減する。現在マムシ抗毒素血清療法は、生命予後の改善は、認められないが、軟部組織障害の抑制効果が期待できる可能性がある。受傷から抗毒素投与までの時間を短くすれば、軟部組織障害の抑制ができるかを調査するために本研究を行う。	野島 剛	平成29年5月 ～平成30年5月
171019	婦人科	日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会婦人科悪性腫瘍登録事業及び登録情報に基づく研究	当院において診断を行った婦人科癌患者の情報を日本産科婦人科学会に提供を行う。婦人科癌患者の医療・福祉に貢献することを目的とする。	國見 祐輔	平成29年6月 ～平成34年12月
171022	腫瘍内科	ロンサーフ(TFTD)使用症例の後ろ向き観察(コホート)研究	実臨床下におけるTFTDの中止理由(RECIST PD、Baseline PD、Clinical PD[腫瘍マーカーの増加、その他臨床的に増悪を疑う所見]、有害事象、その他)を後ろ向きコホート研究により調査し、どのような症例がTFTDにより長期生存を得ることができているかを明らかにする。	島田 安博	平成29年6月 ～平成31年6月
171026	集中治療科	食道癌根治術の周術期におけるデクスメトミジン投与が術後縫合不全の発生率に与える影響	食道癌根治術の周術期にデクスメトミジンを投与することで、術後縫合不全の発生率が低下するかどうかを検討するために、2014年4月から2017年3月の間に食道癌根治術を受けた患者群のうち、術日よりデクスメトミジンを投与された群と投与されなかった群の術後縫合不全の発生率を比較する。	清水 達彦	平成29年7月 ～平成30年3月
171028	腫瘍内科	日本インターベンションラジオロジー学会における症例登録データベースを用いた医学系研究	全国のIVRの実施情報を登録、集計することによりIVR診療の現状を明らかにし、分析してIVR専門医の育成、修練施設の増加などIVR診療の進捗・普及を図ることを目的とする。	秦 康博	平成25年7月～
171029	消化器外科	高齢(65歳以上)の切除可能胸部食道扁平上皮がんに対する治療成績に関する後ろ向き多施設共同観察研究	高齢者切除可能胸部食道扁平上皮がんにおける患者背景・治療内容・治療成績・予後などについて既存の資料を調査し、我が国における診療の現状を把握し治療成績、予後、有害事象を調査し課題を明らかにする。	澁谷 祐一	平成29年7月 ～平成30年12月
171036	循環器内科	カテーテルアブレーション症例全例登録プロジェクト(J-AB レジストリ)	日本におけるカテーテルアブレーションの現状を把握することによりカテーテルアブレーションの不整脈治療における有効性・有益性・安全性およびリスクを明らかにすることを目的とする	山本 克人	平成29年7月～ 平成42年3月

171040	消化器外科	外科的治療を行った大腸癌患者の短期・長期成績に影響を及ぼす因子の検討	予後予測や治療方針決定の一助となる事を目的とし、外科的な治療を行った大腸癌患者の長期および短期成績と患者因子、治療因子、腫瘍因子との相関を後方視的に検討する	稲田 涼	平成29年8月 ～平成30年12月
171044	脳神経外科	脳卒中レジストリを用いた我が国の脳卒中診療実態の把握	本邦における脳卒中の診療実態を把握するため脳卒中の疾患レジストリを構築することを目的とした多施設登録研究	太田 剛史	平成29年9月 ～平成31年3月
171053	中央情報管理室診察	院内がん登録とDPCを使ったQI研究(2015症例)	院内がん登録とDPCの一元管理を試み、がん医療の実態を把握するデータベースを構築するとともに、その活用法を検討することを目的とする	長田 由美子	平成29年10月 ～平成31年6月
171055	消化器外科	胃癌による胃出口狭窄症に対する治療法の実態調査	胃癌による胃出口狭窄症に対する我が国の治療実態と各治療法の有効性、安全性及び治療予後因子を検討する。	尾崎 和秀	平成29年10月 ～平成30年7月
171056	消化器外科	「下部進行直腸癌に対する腹腔鏡下手術の意義」研究登録症例における追加調査	「下部進行直腸癌に対する腹腔鏡下手術の意義」研究に登録された適格1,500症例を用いて、下部進行直腸癌に対する腹腔鏡下手術の腫瘍学的安全性について更なる考察をおこなう。また術前MRI画像所見と病理結果、外科的治療方針・予後との関連についての検索をおこなうため、追跡調査研究を実施する。	稲田 涼	平成29年10月 ～平成30年12月
171058	集中治療科	食道癌根治術における術中のデクスメトミジン投与の有効性に関する検討	食道癌根治術において、術中のデクスメトミジン投与が術後の入院期間を短縮させるかどうかについて検討するために、2014年7月から2017年9月の間に食道癌根治術を受けた患者群のうち、デクスメトミジンを術中から投与された群と術後から投与された群における術後入院日数を比較する。	清水 達彦	平成29年11月 ～平成30年5月
171064	腫瘍内科	肛門管癌の病態解明とStagingに関する研究	肛門管癌は発生学的には内胚葉と外胚葉組織の接合部であり多彩な組織を有している。発生する癌も多彩であるのに対し、本邦の大腸癌取扱い規約は腺癌を中心に分類されているので肛門管癌の特殊性のために規約に合致しない。UICC、AJCCのTNM分類では肛門管癌は大腸癌とは別に分類され、現在に規約では、肛門管癌の取り扱いにはそぐわない可能性が考えられる。今回、本邦における肛門管癌の病態解明とともに、肛門管扁平上皮癌の実臨床に沿ったStagingを行い、その治療方針の提案を行うことを目的としている。	島田 安博	平成29年12月 ～平成31年 (3年間)
171068	脳神経外科	超急性期脳卒中患者への積極的アルテプラゼ静注療法の効果	発症4.5時間以内の急性期脳梗塞ではアルテプラゼ静注療法が有用とされる。しかし脳梗塞患者における実施率は全国で5%程度と少ないことが問題視されている。当施設では2015年1月以降およそ40% (2016年度は287例中108例)と高い実施割合であり、2015年以前の当院データと比して積極的投与により臨床転帰がどう変化することを検討することとした。	太田 剛史	平成29年12月 ～平成30年3月
171070	脳神経外科	一般社団法人 日本脳神経外科学会データベース研究事業 (Japan neurosurgical Database : JND)	日本全国の脳神経外科施設における手術を含む医療情報を登録し、集計・分析することで医療の質の向上に役立て、患者さんに最善の医療を提供することを目的とする。	太田 剛史	平成30年1月 ～平成35年9月
171071	産科	子宮収縮抑制剤の新生児への影響調査検討	2014年に周産期登録事業に参加した355施設において、妊娠32週0日～36週6日の間に分娩となった症例について、硫酸マグネシウムおよびリトドリン塩酸塩の投与状況、その新生児の高カリウム血症と低血糖症の発生状況を調査する。	渡邊理史	平成30年1月 ～平成30年3月

171073	脳神経外科	脳卒中の医療体制の整備のための研究	脳卒中の診療施設から提供されるDPCデータもしくは匿名化処理した医科レセプトデータにより、脳神経外科関連の傷病名等に基づいて対象症例を絞り込んだ全国規模の大規模データベースを構築し、今後の脳卒中関連の研究等に活用するとともに、医療施設の負荷を抑えた方法で脳卒中症例データベース構築を継続していくものである。	太田 剛史	平成30年2月～
171076	腫瘍内科	進行胃癌に対する二次化学療法としてのパクリタキセル療法vs.パクリタキセル+ラムシルマブ療法の多施設共同後ろ向き観察研究	実臨床におけるパクリタキセル毎週投与方法(wPTX療法)とパクリタキセル+ラムシルマブ療法(wPTX+RAM療法)の有効性と安全性を後方視的に明らかにし、ラムシルマブ併用による生存期間延長効果を検討する。また、予後因子も検討する。2014/1月～2016/12月までの、二次化学療法としてwPTX療法またはwPTX+RAM療法が施行された患者のデータ収集	根来 裕二	平成30年2月～平成30年6月
171078	婦人科	我が国における子宮および卵巣原発の悪性黒色腫の現状に関する調査研究について(KCOG-G1701s)	子宮および卵巣の悪性黒色腫はまれであり、臨床像や治療法が確立しておらず、多施設共同研究で症例を集積し、その臨床像や治療可能性について検討を行う。当院で診断した悪性黒色腫患者の患者背景、治療関連因子、および転機をカルテより後方視的に収集、また採取標本の免疫組織化学的検査を中央病理で行う。	國見 祐輔	平成30年2月～平成30年12月
171080	救急救命科	救命救急センターにおけるせん妄評価、対応や治療に関するプロトコルの策定および検証	救命救急センター(ICU/CCU/ICU)におけるせん妄対策として、統一された評価や対応プロトコルを作成し実施する。それによりせん妄の改善や発生数減少を図り、ICU滞在期間や予後の改善、コストの軽減、業務量の軽減やインシデント・アクシデントの発生減少について検証する。	盛實 篤史	平成30年2月～平成30年3月
171085	救命救急科	Augmented Renal Clearanceの臨床的意義に関する後ろ向き観察研究	全身性炎症反応症候群やカテコラミン、輸液の投与などによって心拍出量、腎血流量が増加し薬物の腎クリアランスが増大する現象(ARC)が目ざされている。ARCが起こると腎からの薬物排泄能が亢進し血中薬物濃度が低下、治療効果が減弱する可能性がある。水溶性抗菌薬はARCの影響を受けやすく、効果が減弱する可能性がある。今回ICUへ入院した感染症の症例を対象として、ARCの臨床的意義を後ろ向きに検討する。	丸山 隼一	平成30年3月～平成31年3月